

言語構造から見た〈やさしい日本語〉 その理念と応用可能性

一橋大学国際教育センター教授 庵 功雄

Isaoiori@courante.plala.or.jp

<http://www.l2.plala.or.jp/isaoiori/>

15th EAJS International Conference

@ Universidade Nova de Lisboa

2017.9.2

1. 〈やさしい日本語〉の誕生まで

- 阪神淡路大震災(1995.1.17)
- 死者6000人以上、家屋損壊20万件以上
- →英語も日本語も不自由な外国人が「二重に」被災
- →簡略された日本語(simplified Japanese)で情報を提供する重要性
- →専門用語としての「やさしい日本語」の使用(cf. 佐藤2004、松田ほか2000、庵・岩田・森2011)

1. 〈やさしい日本語〉の誕生まで

- 災害時における「やさしい日本語」の重要性
- →しかし、それと同様に、「**平時**」における**外国人に対する情報提供**も重要
- →**〈やさしい日本語〉**の誕生

2. 〈やさしい日本語〉研究の展開

- 1. 公的文書の書き換え
- Step1, 2(地域型初級における初級前半、初級後半に相当)の文法項目を用いて、プロの日本語教師が書き換える(cf. 庵・イ・森編2011)ことからスタート
- →横浜市との協働
- →市職員による書き換え(→書き換え支援システム)
- →岩田(2016)

2. 〈やさしい日本語〉研究の展開

- 2. 成人から子どもたちへ
- 〈やさしい日本語〉研究は外国人に対する情報提供から出発
- →当初の対象者は成人
- →移民政策との関連
- →外国にルーツを持つ子どもたち(FRC)の問題へ

2. 〈やさしい日本語〉研究の展開

- 3. 日本語母語話者にとっての〈やさしい日本語〉
- 日本語母語話者に求められる日本語能力
- 自分(だけ)が知っていることを相手に伝えて、相手を自分の意見に同意させる
- Ex. 論文、口頭発表(アカデミック)
- 商談、企業内のプレゼン(仕事)
- 管理会社との交渉、自治会の勧誘(日常生活)
- ←日本語母語話者は、自分の意見を述べる(感想文、意見文)活動はしてきていても、相手を説得する活動はほとんど行ってきていない

2. 〈やさしい日本語〉研究の展開

- 3. 日本語母語話者にとっての〈やさしい日本語〉
- 日本語母語話者に求められる日本語能力
- 自分(だけ)が知っていることを相手に伝えて、相手を自分の意見に同意させる
- →「**コミュニケーション力**」(日本語母語話者に最も求められる日本語能力)(cf. 野田・森口2003, 2004)
- 外国人に情報を伝えるようとする活動は、こうした能力の訓練の場となる(cf. 庵2015c, 2016、柳田2015)
- →〈やさしい日本語〉は外国人のためのものではない

3. 移民政策と〈やさしい日本語〉

- 日本政府は正式に「移民」を認めていない
- 実際は、現在の日本社会は外国人抜きでは成り立たなくなっている (cf. 農業就業者平均年齢66.3歳、コンビニ、新聞配達etc.)
- →技術研修生、留学生の「流用」
- 留学生就労「週36時間」に 8時間拡大、九州各県が特区検討(西日本新聞「新 移民時代」2017.2.24)
- →外国人の人権侵害
- 日本語教育界にとっても極めて深刻な弊害

3. 移民政策と〈やさしい日本語〉

- 日本政府は正式に「移民」を認めていない
- →技術研修生、留学生の「流用」
- →外国人の人権侵害
- 日本語教育界にとっても極めて深刻な弊害
- →日本語教育界(特に日本語教育学会)は、政府に対して、「移民」政策の早期実現を働きかけるべき
- →その一方で、「移民」受け入れに関する言語的問題を具体的に検討し、政府、官僚、経済界などに、その内容に基づく提言を行っていく必要
- →〈やさしい日本語〉の2つの役割

4. 〈やさしい日本語〉の2つの役割

- 〈やさしい日本語〉には、次の2つの役割がある。
- 1. 居場所作りのための〈やさしい日本語〉
- 2. バイパスとしての〈やさしい日本語〉

4. 〈やさしい日本語〉の2つの役割

- やさしい日本語には、次の2つの役割がある。
- 1. 居場所作りのための〈やさしい日本語〉
- 2. バイパスとしての〈やさしい日本語〉

5. 居場所作りのための〈やさしい日本語〉

- 定住目的で来日する外国人にとって最も重要なことは、日本で「居場所」を見つけられること
- → 居場所作りのための〈やさしい日本語〉

5. 居場所作りのための〈やさしい日本語〉

- 居場所作りのための〈やさしい日本語〉には、次の3つの側面がある。
- 1. 初期日本語教育の公的保障の対象としての
● 〈やさしい日本語〉
- 2. 地域社会の共通言語としての〈やさしい日本語〉
- 3. 地域型初級としての〈やさしい日本語〉

5. 居場所作りのための〈やさしい日本語〉

- 居場所作りのための〈やさしい日本語〉には、次の3つの側面がある。
- 1. 初期日本語教育の公的保障の対象としての
〈やさしい日本語〉
- 2. 地域社会の共通言語としての〈やさしい日本語〉
- 3. 地域型初級としての〈やさしい日本語〉

5.1 初期日本語教育の公的保障の対象としての 〈やさしい日本語〉

- 日本政府が正式に「移民」政策をとる場合、定住目的の外国人が最初に来日した際に、その人たちに対する日本語教育を公的予算で行う必要がある
- →初期日本語教育の公的保障の対象としての〈やさしい日本語〉
- →「母語でなら言えることを日本語でも言えるようにする」ことが目標

5.1 初期日本語教育の公的保障の対象としての 〈やさしい日本語〉

- 初期日本語教育の公的保障の対象としての
〈やさしい日本語〉
- 「**母語でなら言えることを日本語でも言えるように
する**」ことが目標
- → **簡潔性と体系的**が必要
- → Step1, 2 (地域型初級における初級前半、初級
後半に相当)
- → **NHKのNews Web Easy**や、**公的文書の書き
換えの基準**も基本的にはStep1, 2
- → **行政的コストの低減**

5. 居場所作りのための〈やさしい日本語〉

- 居場所作りのための〈やさしい日本語〉には、次の3つの側面がある。
- 1. 初期日本語教育の公的保障の対象としての
● 〈やさしい日本語〉
- 2. 地域社会の共通言語としての〈やさしい日本語〉
- 3. 地域型初級としての〈やさしい日本語〉

5.2 地域社会の共通言語としての〈やさしい日本語〉

- 定住外国人と地域日本人住民との間の共通言語
- 候補1：英語
- → ×
- 定住外国人にとって、英語より日本語の方が扱いやすい(岩田2010)

5.2 地域社会の共通言語としての〈やさしい日本語〉

- 定住外国人と地域日本人住民との間の共通言語
- 候補2:「普通の」(=調整しない)日本語
- → ×
- これまでの日本社会。日本語を習得したら日本社会に入れてあげる
- 外国人を日本語能力だけで評価する
- →「多文化共生社会」の理念に反する

5.2 地域社会の共通言語としての〈やさしい日本語〉

- 定住外国人と地域日本人住民との間の共通言語
- 候補3:〈やさしい日本語〉
- → ?
- 「論理的には」唯一の可能性
- ただし、自然に共通言語ができるわけではない
- →〈やさしい日本語〉が共通言語になるかどうかは、日本人住民が共通言語を作るための意志を持つかどうかにかかっている

5.2 地域社会の共通言語としての〈やさしい日本語〉

- 定住外国人と地域日本人住民との間の共通言語

日本語母語話者〈受け入れ側の日本人〉

↓ コード（文法、語彙）の制限、

日本語から日本語への翻訳

やさしい日本語（地域社会における共通言語）

↑ ミニマムの文法（Step1, 2）と語彙の習得

日本語ゼロビギナー〈定住外国人〉

5. 居場所作りのための〈やさしい日本語〉

- 居場所作りのための〈やさしい日本語〉には、次の3つの側面がある。
- 1. 初期日本語教育の公的保障の対象としての
● 〈やさしい日本語〉
- 2. 地域社会の共通言語としての〈やさしい日本語〉
- 3. 地域型初級としての〈やさしい日本語〉

5.3 地域型初級としての〈やさしい日本語〉

- 学校型日本語教育と地域型日本語教育(尾崎2004)
- 両者は、ビザの種類、かけられる時間などが異なる
- →地域型日本語教育のための初級シラバス(地域型初級)とそれにそくした教材が必要

6. 〈やさしい日本語〉が 満たすべき言語的要件 (1)

- 〈やさしい日本語〉は、まず、「初期日本語教育の公的保障の対象」「地域型初級」という2つの要請を満たす必要がある
- →「母語でなら言えることを日本語でも言えるようにする」ことが目標
- →「文」について考えることが必要

6.1 「文」とは何か

- 「母語でなら言えることを日本語でも言えるようにする」ことが目標
- →「文」について考えることが必要
- 「文」は、「想(思考内容)」を伝えるための言語的手段(林1960=2013、庵近刊a)

6.1 「文」とは何か

- 「文」は、「想(思考内容)」を伝えるための言語的手段(林1960=2013、庵近刊a)
- 文は、横の関係(統合的關係syntagmatic relation)としての「文法(文型)」と、縦の関係(範列的關係paradigmatic relation)としての「語彙」から構成される(庵2017)
- 太郎が 喫茶店で コーヒーを 飲んでいる。(文法)
- ↓ ↓ ↓ ↓ (語彙)
- →文法はクッキーやゼリーの「型」、語彙は「色」「味」に対応
- →重要なのは、「文法」(「文型」の数)ではなく、「語彙」
- →新しい初級に関する考え方(庵近刊b、近刊c)

6.2 新しい初級のとらえ方

- 文型の数を増やすことが「習得」なのではない
- (1) 私はマイク・ミラーです。(『みんなの日本語初級1』)
- (2) 日本経済の課題は財政再建です。
- →どちらも、文型としては、「**AはBです。**」
- →「大人の物言い」ができるかどうかは「語彙」による
- ←これはL1の習得段階に照らしても妥当
- →「初級」に関する考え方を根本的に変える必要性

6.2 新しい初級のとらえ方

- 文型の数を増やすことが「習得」なのではない
- →「初級」に対するとらえ方を根本的に変える必要性

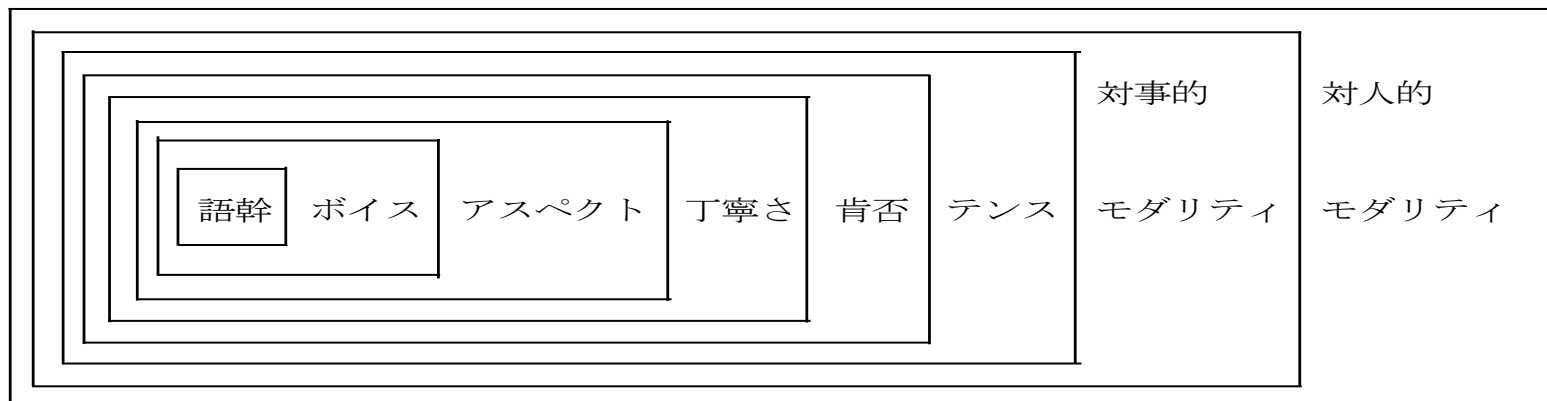
	これまで	これから
文型	変数(どんどん増やす)	定数(あまり増やさない)
語彙	定数(あまり増やさない)	変数(制限をかけない)

6.3 〈やさしい日本語〉が 満たすべき言語的要件 (1)

- 「母語でなら言えることを日本語でも言えるようにする」
- 文は、横の関係(統合的關係syntagmatic relation)としての「文法(文型)」と、縦の関係(範列的關係paradigmatic relation)としての「語彙」から構成される(庵2017)
- 太郎が 喫茶店で コーヒーを 飲んでいる。(文法)
- ↓ ↓ ↓ ↓ (語彙)
- →「横の関係」において、全ての構造(文法カテゴリー)をカバーすれば、「母語で言いたいことを日本語でも言える」ようになる
- →〈やさしい日本語〉の理念にもとづくStep1, 2

6.3 <やさしい日本語> が 満たすべき言語的要件 (1)

- 「横の関係」において、全ての構造をカバーすれば、「母語で言いたいことを日本語でも言える」ようになる
- →<やさしい日本語>の理念にもとづくStep1, 2
- <単文の構造> (cf. 南1974、庵2012、lori to appear)



6.3 <やさしい日本語> が 満たすべき言語的要件 (1)

- 「横の関係」において、全ての構造をカバーすれば、「母語で言いたいことを日本語でも言える」ようになる
- →<やさしい日本語>の理念にもとづくStep1, 2
- <Step1, 2> (cf. 庵2015a、2016、近刊b)
- 格 語幹 ボイス アスペクト 肯否 テンス 対事的 対人的
- モダリティ モダリティ
- てもら ない た と思う よ
- →Step1, 2の文法項目
- →『にほんごこれだけ！ 1, 2』(Step1, 2を網羅)

4. 〈やさしい日本語〉の2つの役割

- やさしい日本語には、次の2つの役割がある。
- 1. 居場所作りのための〈やさしい日本語〉
- 2. バイパスとしての〈やさしい日本語〉

7. バイパスとしての〈やさしい日本語〉

- 「移民」政策として考える場合、最も重要なのは、「移民」の子どもたち(外国にルーツを持つ子どもたち Foreign-rooted children. FRC)の問題
- FRCが、まっとうに努力すれば、日本社会の中で自己実現できることが保障されていることが必要
- → 高校進学率(現在30%?)を可能な限り、日本人並みに近づけることが必要

7. バイパスとしての〈やさしい日本語〉

- FRCがまっとうに努力すれば、日本社会の中で自己実現できることが保障されていることが必要
- → 高校進学率(現在30%?)を可能な限り、日本人並みに近づけることが必要
- ← L1の日本語母語話者の子どもが日本語を習得するのに20,000時間程度必要(大関浩美氏p.c.)(cf. 旧日本語能力試験3級修了300時間)
- → FRCは同世代の日本語母語話者に比べて、100m競争で50mのハンディをつけられている
- → ハンディを埋める必要
- → バイパスとしての〈やさしい日本語〉

7. バイパスとしての〈やさしい日本語〉

- バイパスとしての〈やさしい日本語〉にもとづく教材に求められる要件
- (3)a. 初級から上級までを見通したシラバスによって設計されている
- b. 限られた時間で学べるように、習得すべき項目が厳選されている
- c. 教材において、理解レベルと産出レベルの区別が明確で、各技能に特化した言語知識を導入できる設計になっている
- d. 教室で学ぶことを補完する形で、e-learningなどの補助教材が充実している

7. バイパスとしての〈やさしい日本語〉

- バイパスとしての〈やさしい日本語〉にもとづく教材に求められる要件
- →現在、中学校の教科書を読むための日本語教科書（全3巻）を作成中（3年後をめどに公刊予定）
- <http://www12.plala.or.jp/isaoiori/yomiuri170714.pdf>
 - （読売新聞朝刊2017.7.14）

7. バイパスとしての〈やさしい日本語〉

- ろう児に対する日本語教育
- ろう児にとってのL1は日本手話であり、書記日本語はL2である
- →この点が理解されていない
- →この点を踏まえて考えれば、ろう児に対する日本語教育は、留学生に対する日本語教育とほぼ並行的に考えることができる
- →日本語教育関係者の力が最も発揮できるフィールド
- →より詳しくは、庵(2016)、Iori & Oka(2016)を参照

8. 〈やさしい日本語〉と スコットランドの言語教育

- スコットランドの初等・中等教育での日本語の導入
(1+2のアプローチ)
- 【課題】
- かけられる時間が(極めて)限られている
- JFL環境である
- →少ない文法項目で様々なことが表現できる活動
- 教科学習と結びつけた活動
- →〈やさしい日本語〉の応用可能性

8. 〈やさしい日本語〉と スコットランドの言語教育

- スコットランドの初等・中等教育での日本語の導入
(1+2のアプローチ)
- 少ない文法項目で様々なことが表現できる活動
- 教科学習と結びつけた活動
- →〈やさしい日本語〉の応用可能性
- →〈やさしい日本語〉の文法シラバスから、必要に応じて項目を取捨選択する
- 〈やさしい日本語〉の理念にもとづく文法シラバス (cf. 庵2015a, 2015b) の改訂版がほぼ完成

9. 言語構造から見た 〈やさしい日本語〉とその応用可能性

- 留学生教育においても、学習者の変化に対応したシラバスとそれにもとづく教材が必要（庵近刊c）
- 〈やさしい日本語〉の理念にもとづく文法シラバス（cf. 庵2015a, b）の改訂版がほぼ完成
- →留学生対象の新しい総合日本語教科書の作成（Step1～6。5年後の刊行を目指して準備中。cf. 庵近刊b）
- 文法シラバス自体は「中立的」なものとして公刊し、専門家が自らの対象者に合わせてオーダーメイド可能にする
- →〈やさしい日本語〉の理念の応用可能性

10. まとめ

- 〈やさしい日本語〉は、日本が正式に「移民」政策をとる際の言語問題の解決のための方策として考案されている
- 〈やさしい日本語〉には、「居場所作りのための〈やさしい日本語〉」「バイパスとしての〈やさしい日本語〉」という2つの役割がある
- 〈やさしい日本語〉は、言語構造的には、「母語でなら言えることを日本語でも言えるようにする」ことを目指している
- 〈やさしい日本語〉の理念は、スコットランドを初めとする海外のJFL環境での日本語教育への応用可能性を秘めている
- → [Yasashii Nihongo \(Easy Japanese\) and its implication for the education of immigrants' teenage children in Japan](#) (Keynote talk @University of Edinburgh. 2017.8.27)

Step1 の文法項目（最新版 庵 2016, 近刊 a）

特徴：助詞はほぼ網羅している（主語の「が」を除く）

テンスはほぼ網羅している（動詞の現在を除く）

複文相当もほぼカバーしている

テ形を含む活用形がない（→「～ています、てください」などはない）

→『にほんごこれだけ！1』

動詞文 ～ます、ました、ません、ませんでした

イ形容詞文 ～です、かったです、くありません／くないです、
～くありませんでした／くなかったです

ナ形容詞文 ～です、でした、じゃありません／じゃないです、

名詞文 ～じゃありませんでした／じゃなかったです

助詞

格助詞 ～が（目的語）、～を、～に、～で、～と、～から、～まで、～ ϕ ；～の

その他 ～の（準体助詞）、～と（並列助詞）、～も（取り立て助詞）

～か、～よ、～ね（終助詞）

疑問詞 誰、何、何〇（何時、何年、何歳、何個）、どこ、いつ、どれ・どっち、どう、
どうやって

指示詞 これ／それ／あれ、この／その／あの+N、こっち／そっち／あっち、
ここ／そこ／あそこ

モダリティ たぶん、～たいです

複文相当 ～。それから（←～てから）、～。それで（←～ので）、
～。でも（←～けど）、～。そのとき（←～とき）

その他 数字、曜日、…に～があります／います（存在）、～には弟がいます（所有）

参考文献

- 庵 功雄(2012)『新しい日本語学入門』スリーエーネットワーク
- 庵 功雄(2015a)「第1章 日本語学的知見から見た初級シラバス」庵・山内編(2015)
- 庵 功雄(2015b)「第2章 日本語学的知見から見た中上級シラバス」庵・山内編(2015)
- 庵 功雄(2015c)「やさしい日本語」研究が日本語母語話者にとって持つ意義—「やさしい日本語」は外国人のためだけのものではない—」『一橋大学国際教育センター紀要』6
- **庵 功雄(2016)『やさしい日本語—多文化共生社会へ—』岩波新書**
- **庵 功雄(2017)『一步進んだ日本語文法の教え方1』くろしお出版**
- 庵 功雄(近刊a)「日本語教育から見た『基本文型の研究』」庵 功雄・石黒 圭・丸山岳彦編『時間の流れと文章の組み立て—林言語学の再解釈—』ひつじ書房
- 庵 功雄(近刊b)「新しい留学生向け総合教科書作成のための予備的考察—初級文法項目を中心に—」『言語文化』54、一橋大学
- 庵 功雄(近刊c)「大学における英語中心主義を生き延びるための留学生日本語教育と<やさしい日本語>」『言語文化教育研究』15
- 庵 功雄・岩田一成・森 篤嗣(2011)「「やさしい日本語」を用いた公文書の書き換え—多文化共生と日本語教育文法の接点を求めて—」『人文・自然研究』5、一橋大学
- 庵 功雄監修(2010, 2011)『にほんごこれだけ! 1, 2』ココ出版
- 庵 功雄・イ・ヨンスク・森 篤嗣編(2011)『「やさしい日本語」は何を目指すか』ココ出版
- 庵 功雄・山内博之編(2015)『データに基づく文法シラバス』くろしお出版
- 岩田一成(2010)「言語サービスにおける英語志向」『社会言語科学』13-1

参考文献

- **岩田一成(2016)『読み手に伝わる公用文:〈やさしい日本語〉の視点から』大修館書店**
- 尾崎明人(2004)「地域型日本語教育の方法論的試論」小山悟ほか編『言語と教育—日本語を対象として—』くろしお出版
- 佐藤和之(2004)「災害時の言語表現を考える」『日本語学』23-8
- 野田尚史・森口 稔(2003)『日本語を書くトレーニング』ひつじ書房
- 野田尚史・森口 稔(2004)『日本語を話すトレーニング』ひつじ書房
- 林 四郎(1960)『基本文型の研究』ひつじ書房から復刊(2013)
- 松田陽子・前田理佳子・佐藤和之(2000)「災害時の外国人に対する情報提供のための日本語表現とその有効性に関する試論」『日本語科学』7、国立国語研究所
- 南不二男(1974)『現代日本語の構造』大修館書店
- 柳田直美(2015)『接触場面における母語話者のコミュニケーション方略:情報やりとり方略の学習に着目して』ココ出版
- **Iori, Isao (2016) “The Enterprise of Yasashii Nihongo : For a Sustainable Multicultural Society in Japan” 『人文・自然研究』10、一橋大学**
- Iori, Isao & Oka, Norie (2016) “A Preliminary study on teaching written Japanese to deaf children” *Hitotsubashi Journal Arts and Sciences*. 57-1、一橋大学
- Iori, Isao (to appear) "Layered Structure", Shibatani, Masayoshi, Miyagawa, Shiigeru and Noda, Hisashi (eds.) *Handbook of Japanese Syntax*. De Gruyter Mouton

ご清聴ありがとうございました